

公表	事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）
----	---------------------------

事業所名	バレット	公表日 2026年3月10日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・公園に行く等、活動スペースを分けている	・トラブルがあった時にクールダウンや話し合いの為にもう一部屋くらいあると良いと思う。また、机や椅子を隣に片付けてはいるが子ども達も成長して大きくなっている為、もう少し広いスペースがあると良い。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・インターフォンは光るので視覚で確認できる対応をはじめ、他にも視覚的に見て分かりやすく過ごせる環境設定をしている。	・玩具や本が、学習や活動の際に刺激になる場合がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・子どもの心身の状態に合わせて柔軟に対応している。	・トラブルが起きた際に、複数人クールダウンが必要な場合スタッフルームに入ることがあるが、本来は別室、またはパーティション等でクールダウン出来る場が設けられると良い。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・月1度の社内研修で全体共有している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・社内研修、毎日のMTG、業務終了時の振り返り等で意見を聞く機会を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・今後検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・研修の受講を推奨している。社内研修では、幅広いジャンルの内容を実施している。	・常勤スタッフだけでなく、パートのスタッフにも研修受講の機会を増やしていく。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・相談室内に掲示してある。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・日々のMTGで子どもやご家庭の様子をシェアしスタッフ間で意見交換し、支援計画にも反映されている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画内容をMTGでわかりやすくシェアされている為、支援に反映しやすい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・毎月の社内研修で各スタッフが担当する児童目標と経過を報告している。スタッフのLINEグループを活用して即時対応(課題を取りこぼさない)できるようにしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・スタッフの得意とする分野を活かした立案、事前に計画をシェアして意見交換しプログラムに反映している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・子どもの関心事、支援を要する項目を視野に入れて考えている。子ども達自身にも企画を考えてもらい、実施している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・個別活動と集団活動、それぞれの良さの特徴を理解した上で支援に反映している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・毎日MTGを実施している。	・今後、室内外の活動や学習に対し、どのスタッフでも統一した対応ができるようにルールや役割を明確化する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・送迎に出るスタッフやそれぞれ退勤時間が異なるためできる形で振り返り実施。LINEグループを併用し共有に務めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・毎日個別のサービス提供記録を記載している。また、学習面は別で記録を残し、遊びの内容に関しては写真を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・気になることがあると、子ども本人にヒヤリングを行うなど子ども自身の思いも大切にしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・子どもの成長発達に合わせ、日常の中で重要視して支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	△		・地域の医療センターの勉強会や交流会に参加し、今後連携できるように関係をつなげている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・月の行事予定を学校と共有している。また、利用児童の利用予定は年度初めに学校に伝えている。他にも、日頃から積極的に情報共有に努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・バステレーバレットの子どもが多数の状況で、移行前には見学や情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				・今のところ対象者がいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	△		・今後、事例検討を通じてアドバイスを受ける予定。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	△			・近くに児童館や学童がある為、まずは児童館の見学等で関わりを持っていきたい。 ・市郷高校の学生との定期的な交流やボランティアに来てもらっている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・子ども部会への参加と協力をしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・お迎え時に話をしたりサービス提供記録でのやり取りを通じ、放デイと家庭でみせる子どもの様子の違いも確認している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	△			・手話教室は随時募集中。
関	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・児発管が行い、必要事項は会議等で職員に周知している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・常時相談は受け付けている。また、全スタッフが話しやすい雰囲気づくりを心がけている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		・中々機会を作れていない状況。今後、保護者のみでなく、きょうだい支援も考えていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・スタッフ間で直ぐに情報共有している。情報を止めないことで対応を遅らせない様意識づけをしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・日本語のみでなく、手話やジャスチャー等使用しながらコミュニケーションを取っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	△		・ボランティアの受入れを積極的に行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・月1回の防災訓練（子ども参加）を実施している。毎月の社内研修での確認（感染症対応）を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・保護者にアセスメントしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	△			・安全計画は作成しているが、今後周知に努める。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・毎月の社内研修で共有、検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・毎年5月や11月の虐待防止月間に合わせて研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	△		・身体拘束については、社内研修を行い周知している。	・身体拘束が必要な対象者がいない。	